

# 豊明希望チャペル礼拝

2024/7/7

「罪の赦しを与えるため」

使徒 5 : 12～32

25年ほど前のことになりますが、センド派遣会とって、アメリカのセンド宣教団のセンディングボード(日本から宣教師を遣わす働き)の働きにたずさわらせていただいたことがあります。



島先克臣先生(元アジア神学大学院准教授)をフィリピンにあるアジア神学大学の教授として送り出すという働きでした。このアジア神学大学はフィリピンにあって、インドネシアや、アジアの貧しいところから救われた若者たちを受け入れ、聖書を専門的に学ばせ、牧師、宣教師として、再び、彼らの働きに遣わすという働きでありました。

アメリカ人や、また日本人や韓国人が宣教地に行くのもいい、しかし、救われた島の若者たちを訓練して、再び、今度は宣教師として島に遣わす、生まれた故郷に遣わすという、すごく意味深い働きのため、日本から島先先生を遣わすという働きでした。

先生のサポートレイズ(献金集め)の働きを助け、各教会に呼びかけ、さらには、先生が宣教地からディプテーション(休暇)で日本に帰って来たときの、宿泊所(家)を用意するなど、一人の宣教師が遣わされることにはたくさんの背後にある働き、そして祈りがあることを実感した、とても貴重な体験であったと思います。先生は、日本での

この、新改訳 2017 聖書の翻訳委員もなされ、帰国後の今も、活躍されています。

遣わされる時、私は先生ご夫妻と食事をしました。その時、今と違って、当時は、フィリピンは治安の悪い面があり、先生が現地で車を持たないという配慮もありました。それは、フィリピンの人たちはとてもいい人たちなのですが、日本人が車をもっていると、止められて、違反切符をきられて、それが彼らの収入になるという場合があって、先生は、フィリピン生活でのトラウマがあるという事を知りました。

私は、この経験を通して、宣教師たちが(現地の若者で遣わされる宣教師も含めて)、神の言葉を伝えるとき、そこには、神の召命に応える、その責任感を、誰よりも強く持たれているのだという事を深く知る機会となりました。

今日の箇所は、たびたびの逮捕にも関わらず、再び、御言葉を伝えていくペテロの姿から、キリスト者が御言葉に従うことの祝福と覚悟というものについて教えられればと願っています。

すこし長い箇所ですので、御言葉を追いながら、何があったのか、少しずつ、見ていきましょう。

まず、12 節から 16 節では、アナニヤとサツピラのような例もありましたが、救われる人が多く集まり、教会は、驚くべき成長が与えられました。そうした中で、ペテロら、使徒達の評判も高くなりました。



「5:14 そして、主を信じる者たちはますます増え、男も女も大勢になった。5:15 そしてついには、病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせて、ペテロが通りかかるときには、せめてその影だけでも、病人のだれかにかかるようにするほどにな

った。」

この絵は、スイスの画家ウジェーヌ・ビュルナン(1850～1921)という人が描いた、マリアらの、イエス様が墓にいない、よみがえって主に会ったとの報告を聞き、ペテロらに伝えよという命令を聞いて、急いで墓に駆けつけるヨハネとペテロの場面です。一度は裏切ったけれど、しかし、ガリラヤ湖での再びのイエス様の出会い、その時の、依然としてにぶいペテロでしたが、繰り返し、ペテロを招き、私はあなたをあきらめない、三度も説得し、ペテロ、貴方を遣わすとおっしゃられたイエス様は、今日の箇所、まさに、今日のところでも、3度目となる逮捕、度々の逮捕の中で、しかし、イエス様の、また聖霊の、語るのをやめてはならない、私があきらめなかったように、あなたも、あきらめなくて、救われるべき人々のために、語り続けよと言われて、三度逮捕されても、三度、出かけていく、三度出かけて、三度御言葉を語るということを行います。



ちなみに、最初の逮捕は、4章でしたが、逮捕されますが、キリストの名で語ってはならないという注意を与えられて、わかったか？と確認されたときです。そのたびは、ペテロは、またヨハネは、人々に、キリストを信じるなら救われる、キリスト以外に、救いはない。この方を信じるなら、永遠の命を得る、これが福音だと伝えるのです。



その結果、大祭司や、サドカイ派の当局者は、再び、ペテロらを逮捕するのです。これが2回目の逮捕です。

**「5:17 そこで、大祭司とその仲間たち、すなわちサドカイ派の者たちはみな、ねたみに燃えて立ち上がり、5:18 使徒たちに手をかけて捕らえ、彼らを公の留置場に入れた。」**

しかし、神さまは、イエス様は、あきらめません。彼らに、語れ、語ることをやめるな、出て行って、もう一度語れと命じられます。何と神さまは強引にも、彼らに天使を遣わして、言わば・・・牢獄から引きずり出して、人々に福音を語らせようとされます。すなわち。

**「5:19 ところが、夜、主の使いが牢の戸を開け、彼らを連れ出し、5:20 「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちのことばをすべて語りなさい」と言った。」**

「イエスの名によって語ることも教える事もいっさいしてはならない」(4:18)と脅されたにも関わらず、当時の、いわば警察権力に逆らっても、語り続けたのです。

この絵にあるように、主の使いが牢の戸を開けて、連れ出したのです。

祭司らは、堂々と、牢の外で、民衆が集まってきて、さらには、神殿、宮の外で、堂々と、公に福音を語っていたのです。

この辺の事情をルカは、詳細に描きますが、読めば読むほど、何が起きたのか、わからないような不思議なことです。



留置場の戸が開けられて、彼らは、言わば表門から堂々とでていのに、下役の祭司らへの説明では、牢獄は鍵がかかっていたし、不思議なのは、開けられたとしても、牢の前には、牢番が立っていたのに、気づかなかったというのです。朝になって、ペテロらを裁判にかけるから出せと命じられて行って見るといかなかったと報告するのです。この絵のように、実際には、門番は寝ていて、それを言えなかったもので、こういう言い方をしたのでしょうか。

24 節に、「宮の守衛長や祭司長たちは、このことばを聞くと・・・当惑した」と報告していますが、まさにわけがわからないことでした。神は、人の力では、想像する出来ない方法で、彼ら使徒達を、神

に仕える者たちに力を下され、まさに奇跡をもって救い出し、その使命を成し遂げさせたのです。

私は、フィリピンの愛する兄弟姉妹が、最初にこの教会の門をたたかれたとき、これを教会で使って下さいと献金を渡され、さらには、福音を伝えるチラシを下さいと申し出られたことに深い感銘を受けました。この教会に来られて第一の動機が、伝道であり宣教のためであったことに、深く考えさせられ教えられたのです。私はどうだろうか。

ペテロらは、解放されると、すぐに伝道をはじめた、語り始めた。それを、神は、何より望んでおられた。そのことに私たちも深く教えられ考えさせられるのではないのでしょうか。

私はどうだろうか。しかし、もし、私たちが、主の働きのため、人々の救われるために、すぐに応え、いつもその思いで、家族親族のため、また多くの人たちのために伝えたいと思っているならば、主は、大きな力で寄り添い、奇跡を行い、その役割を果たさせて下さることを思うのです。

先週、東京のある兄弟から電話がありました。名古屋に行くことになったので、久しぶりにお会いしたいのですが・・・と。彼は、大手 IT 系の会社員で、今回は名古屋

で仕事があるというのです。奥様と二人で来られると言うことでした。

最初にお会いしたのは、奥様です。彼の奥様は中国出身の方です。教会に来るなり、いきなり、夫が救われるために、そして、私の大好きな、夫のお母さんが救われるために、力を貸して下さいというものでした。

ご家族で教会に通われ、その後、御主人は、洗礼を受けられました。また、お母様は、その後すぐに、病で危険な状態になりました。先生、すぐに来て祈ってくれと、言われ、病院にかけつけました。その後癒され、洗礼を受けられました。今もお元気です。(四国にいるときには、その元気になられたお母様と息子さんと皆で来られた・・)

さて、御言葉に戻りますが、祭司長らと、牢番の下役らの不思議を超えて、滑稽な会話が出てきます。

**「5:25 そこへ、ある人がやって来て、「ご覧ください。あなたがたが牢に入れた者たちが、宮の中に立って人々を教えています」と告げた。」**

あれほど、福音は語るな、伝道するなど言ったのに、彼らは、あそこにいます。ああ、また、伝道してますね。まるで、何ごともなかったかのように、牢獄に入れたはずの人たちが、宮の中まで入って、イエス様を伝えていますね・・

なんとも、不思議で、なんとも滑稽な光景です。まるで、政治家たちが、馬鹿にされているかのようです。神さまによって。

しかし、もう手遅れでした。その福音によって、多くの人が感動し、次々に救われている最中だったからです。ここで、手をだしたら、こっちが、彼らに石をなげられる・・・祭司らは、そう感じました。

そして、最初に言いましたように、3度目の逮捕です。

**「5:27 彼らが使徒たちを連れて来て最高法院の中に立たせると、大祭司は使徒たちを尋問した。5:28 「あの名によって教えてはならないと厳しく命じておいたではないか・・・」**

ペテロは、こう答えます。

**「5:29 しかし、ペテロと使徒たちは答えた。「人に従うより、神に従うべきです。5:30 私たちの父祖の神は、あなたがたが木にかけて殺したイエスを、よみがえらせました。5:31 神は、イスラエルを悔い改めさせ、罪の赦しを与えるために、このイエスを導き手、また救い主として、ご自分の右に上げられました。5:32 私たちはこれらのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊も証人です。」**

「人に従うより、神に従うべきです。」

これは、第1回目に逮捕された言葉とほぼ同じ言葉です。

**「4:19 しかし、ペテロとヨハネは彼らに答えた。「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。4:20 私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」**

あなたに従うより、神に従う。神は、話せと言われていたのだから、話す。ペテロらは、そう言うのです。



先月、四国の時に、教会に通われていた求道者の方から連絡がありました。Tさんは、アルコール依存症や、薬物依存症の方々の相談にのり、彼らを助ける役割をしておられました。その彼が、「洗礼を受けました。」と言うのです。

たしか、洗礼を受けたいのですが、受けるなら、その人から受けたいと思っているんですと言っておられたことを思い出しました。その人とは、アーサーホーランドという宣教師です。彼から受けたと。彼は、実家のお墓の問題や、今までの人生の様々なことがあって、イエス様を、真正面から、公に、信じて洗礼をうけるわけにはいかないと言っておられたように思います。上の写真を送ってきました。

十字架を担いで、伝道しているアーサーホーランド先生

の後について、道を行進をしています。そのようにして伝道している先生の後に従っているのです。私は同じ歳で、長髪の姿で、どちらが兄弟なのか・・・(おそらく後ろ)でも、私の印象では、仕事柄、あるいは、親族とのお墓の問題があって、公に洗礼を受けることを躊躇しておられたように思っていますが、少なくとも今は、このように、十字架を担ぎながら、公の道を、この世を歩もうとされている、歩んでいることに、驚きを覚えると共に感謝しました。T教会の役員だったSさんから、「先生が祈っておられたT兄が、洗礼を受けました。」と電話がありました。私は、知っているよ。十字架をかついで、行進している写真を見たよと伝え、二人で、嬉しく笑い合いました。

神さまは、私たちにも、「伝えよ」「ただ福音を」と言われています。私達を丁寧に導いて悔い改めさせ救い、そして使命を与えてくださった、主が、さらに多くの愛する人たちに伝えよと。この週、主の幸いな福音を多くの人に証ししていく感謝な歩みをここから始めさせていただきたいと願います。